

参 考 手 本

古仏無言に坐す

古
佛
坐
無
言

※これは規定課題ではありません。

成
瀬
映
山
先
生

参 考 手 本

筆硯佳友を得る

筆硯
佳友
得

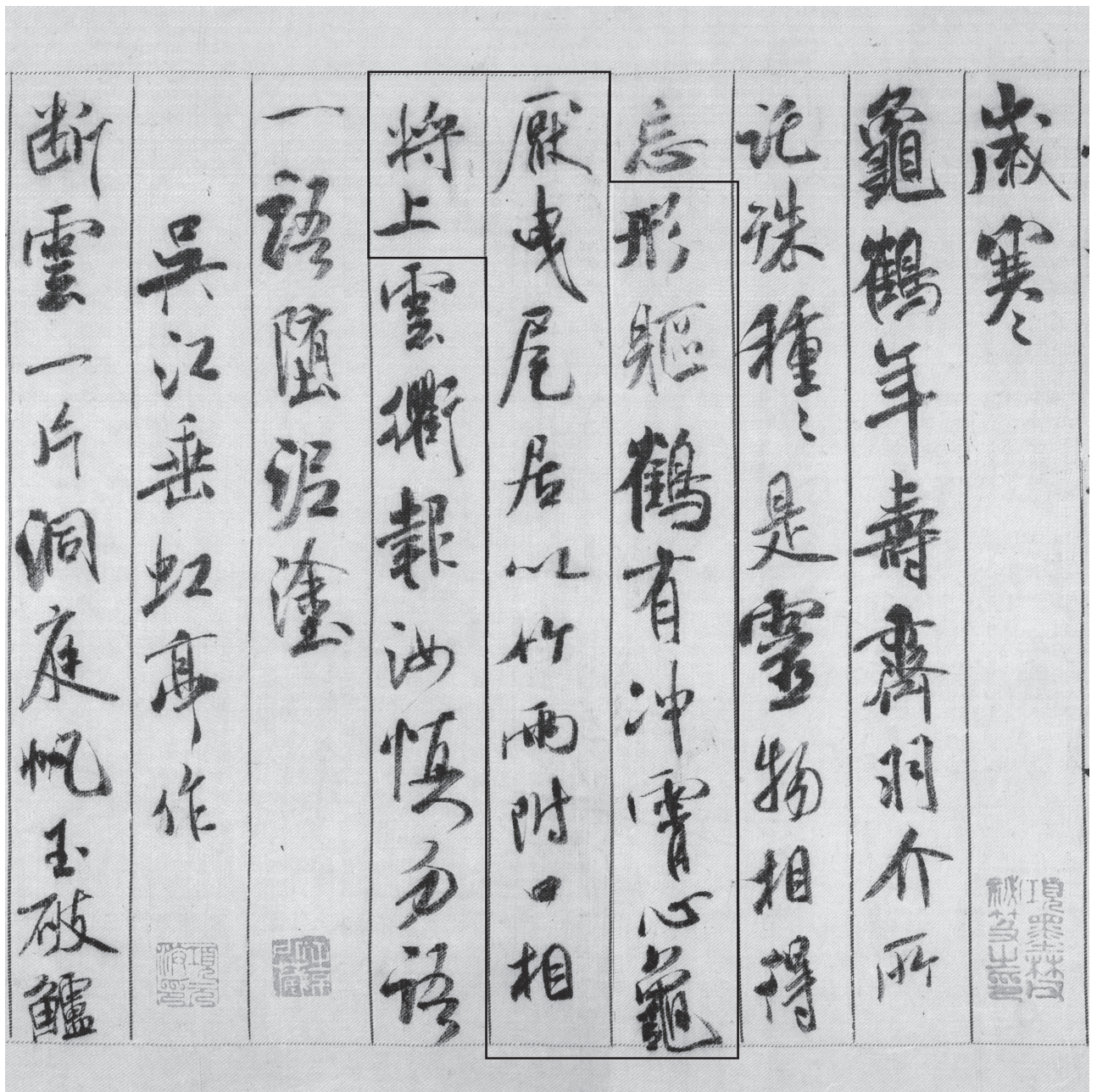
高 木 聖 雨 先 生

※これは規定課題ではありません。

条幅規定

A 部（準五段以上）

蜀



『蜀素帖』 米芾（宋）

（安得保） 歳寒。 龜鶴年壽齊。

羽介所託殊。 種種是靈物。

相得忘形軀。 鶴有冲霄心。

龜厭曳尾居。 以竹兩附口。

相將上雲衢。 報汝慎勿語。

一語墮泥塗。

吳江垂虹亭作

断雲一片洞庭帆玉破鱸

安んぞ歳寒を保つを得んや

龜鶴年壽齊しきも

羽介託する所殊なる

種々是れ靈物

相い得んや形軀を忘るるを

鶴には有り冲霄の心

龜は厭う曳尾の居

竹を以て両に口に附し

相い將いて雲衢に上る

汝に報ず慎んで語る勿かれ

一たび語れば泥塗に墮ちん

吳江垂虹亭の作

断雲一片洞庭の帆玉は鱸魚を破り

【今月の課題】

「形軀鶴有冲霄心龜厭曳

尾居以竹兩附口相將上」

（20字）

（この課題を同月の条幅随意には出品出来ません）

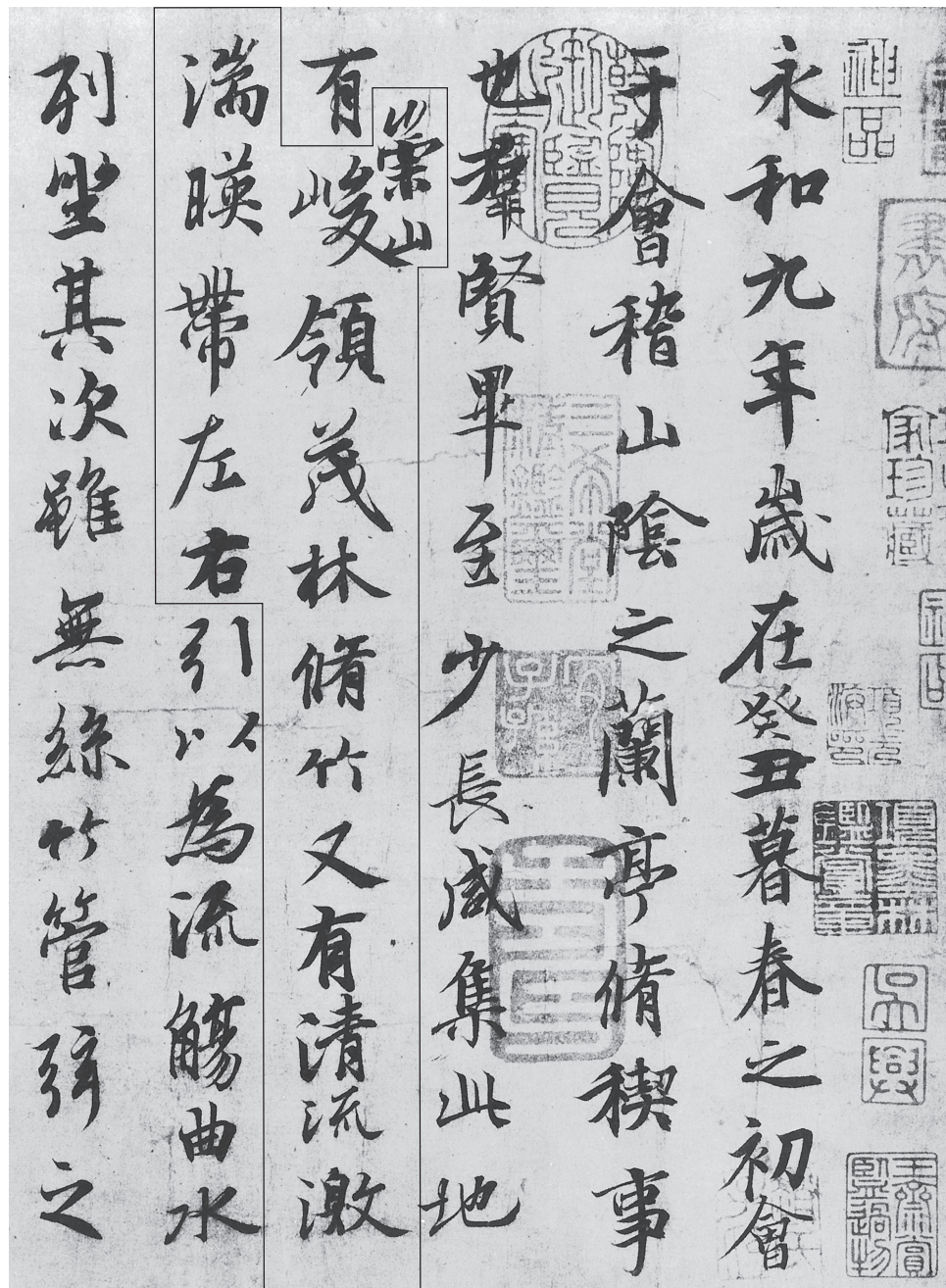
条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・級を記入してください

（10月10日締切）

条幅規定

B部（四段以下）

『蘭亭叙』
王羲之（東晋）



永和九年 歲在癸丑 暮春之初 會于會稽山陰之蘭亭 脩禊事也 羣賢畢至 少長咸集 此地有崇山峻領 茂林脩竹 又有清流激湍 映帶左右 引以為流觴曲水 列坐其次 雖無絲竹管弦之盛

永和九年。歲は癸丑に在り。暮春の初め、會稽山陰の蘭亭に會す。禊事を脩むるなり。羣賢畢く至り、少長咸な集まる。此の地崇山峻領、茂林脩竹有り、又た清流激湍有りて、左右に映帶す。引いて以て流觴曲水を為し、其の次に列坐す。絲竹管弦の盛無しと雖も、

【今月の課題】

「崇山峻領茂林脩竹又有清流激湍映帶左右」

(18字)

〔この課題を同月の条幅随意には出品出来ません〕

条幅のバーコード出品券にはA・Bでは無く段・級を記入してください

(10月10日締切)

曹全碑（漢・作者不詳）

国都尉丞右

半紙規定（一）



※清書作品には支部名・段級・雅号を必ず筆で記入して下さい。

・国都尉丞右

九成宮醴泉銘（唐・欧陽詢）

今斯乃上帝

半紙規定（二）



※清書の提出は〔初段以上〕楷書か隷書
〔二級以下〕楷書

・当今に取る。斯れ乃ち、上帝

〔この課題を同月の半紙随意には出品出来ません〕
（10月10日締切）

条幅参考手本

白髮三千丈
緣愁似箇長
不知明鏡裏
何處得秋霜

石田輝仙先生

白髮三千丈 緣愁似箇長 不知明鏡裏 何處得秋霜
白髮三千丈 愁に縁りて箇の似く長し 知らず明鏡の裏 何れの処にか秋霜を得たる

長澤豊雲先生

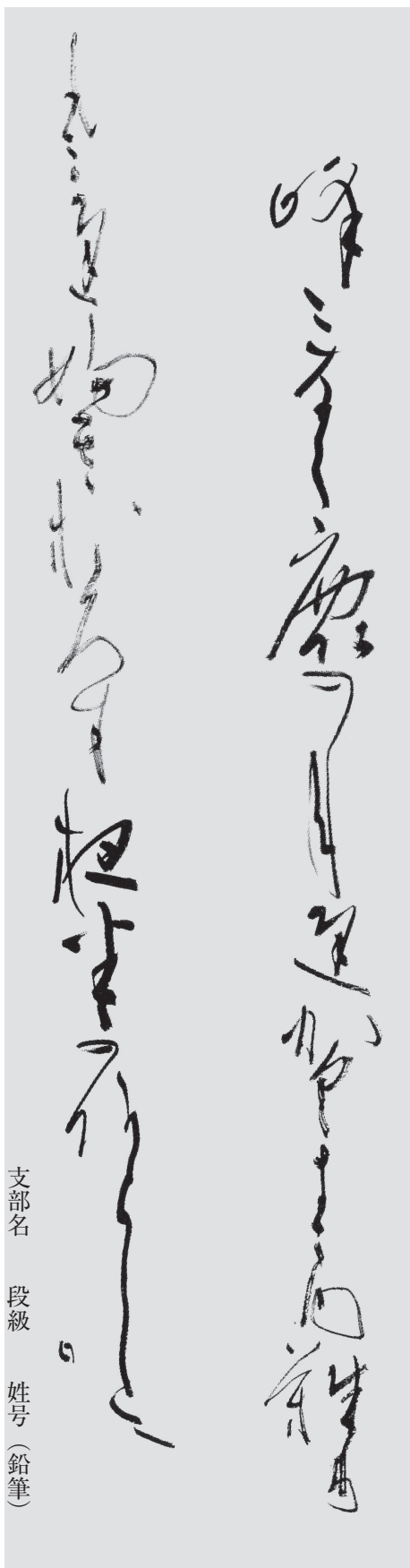
領得烏紗帽
全勝白接離
山人不照鏡
稚子道相宜

領得烏紗帽 全勝白接離 山人不照鏡 稚子道相宜
烏紗帽を領得して 全く白接離に勝る 山人は鏡に照らさざるも 稚子は相宜しと道う

条幅かな

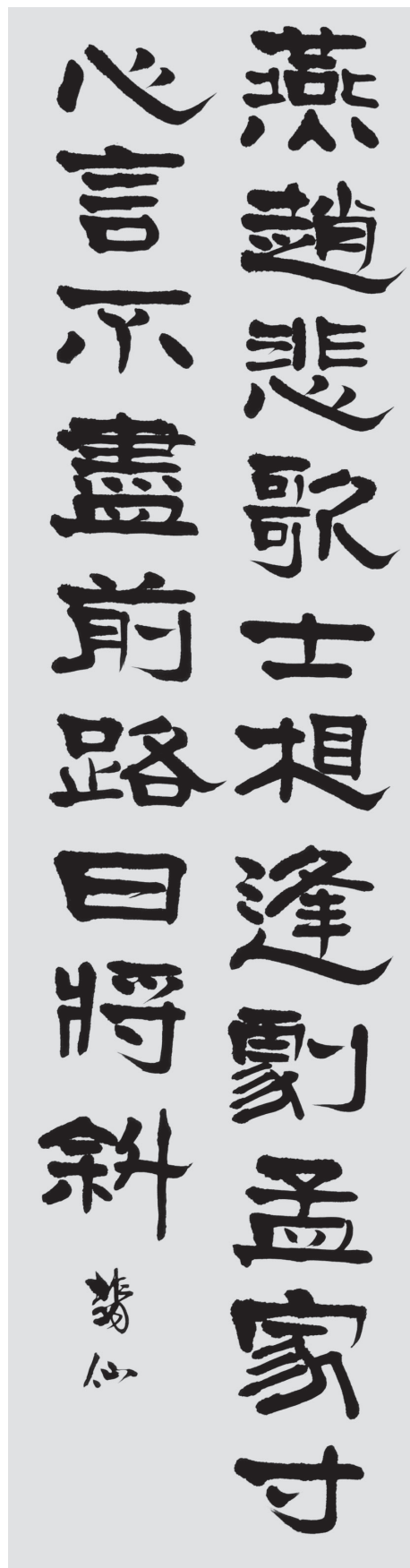
条幅参考手本

二奈鹿 年遅か具支 難利 三遅婦 於寸 阿二
 峯^{みね}になくしかのね^{ちか}近^{ちか}きこゆなりもみぢふきおろす夜^よ半^はのあらしに（前参議経盛）※かな部は支部名・段級・姓号を鉛筆で左下部に添え書きして下さい。



浮乗清郷先生

燕趙悲歌士 相逢劇孟家 寸心言不盡 前路日將斜
 燕趙悲歌の士 相逢う劇孟の家 寸心言い盡さず 前路日將に斜ならんとす



織田翦仙先生

(10月10日締切)

半紙かな（１級以下）

花鳥のなかの鬼灯ともりける（後藤夜半）
可寶つ支遺留

支部名 級 姓 号（鉛筆）

※ちらし文字変換は自由

花鳥のなかの鬼灯ともりける

※支部名・級・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

半紙かな（初段以上）

山里に霧の籬のへだてずば遠方人の袖はみてまし（曾禰好忠）
やまざと きり まがき
さと二 万可支能遍多帝春八乎地可多日と

支部名 段 姓 号（鉛筆）

※ちらし文字変換は自由

山里に霧の籬のへだてずば遠方人の袖はみてまし

※支部名・段・姓号を鉛筆で左下に添え書きして下さい。

（10月10日締切）

浮 乗 清 郷 先 生

実 用 文

※準三段以上…行書を草書に変換は自由

〈書風任意〉

げにや大雅をこひ慕ふ君らあ
れば君がため芸術の天に懸る日
も時を導く星影もづれ行くへを
照らすく深き光を示すらむ

支部名 段級 姓 号

渡 邊 南 嶂 先 生

島崎藤村詩「夏草」より

(10月10日締切)

細字

高須翠雲書「五體昭和千字文」より P51

主幹 菅野翠濤

梧桐蛭聲神杉老鶯
 梧桐蛭聲神杉老鶯
 梧桐蛭聲神杉老鶯
 梧桐蛭聲神杉老鶯

支部

段級

姓

号

(名前は必ず楷書で書くこと)

※一級〜八級は草書まで。

初段以上は隷書まで。

※名前は楷書以外では違反になります。

17 cm (よこ) × 24 cm (たて)

梧桐 蛭 聲
 梧桐 蛭 聲

青桐。 ひぐらしの声。

老鶯 夏のうぐいす。

(10月10日締切)

硬筆（１級以下）

2行、楷書

会津八一ゆかりの雁来紅の種子蒔き
て庭一面に咲くを楽しむ。
支部 級 姓 号

田 邊 翠 鶴 先 生

硬筆（初段以上）

3行、行草書

…恐れず、空間を…文字を置いて…。

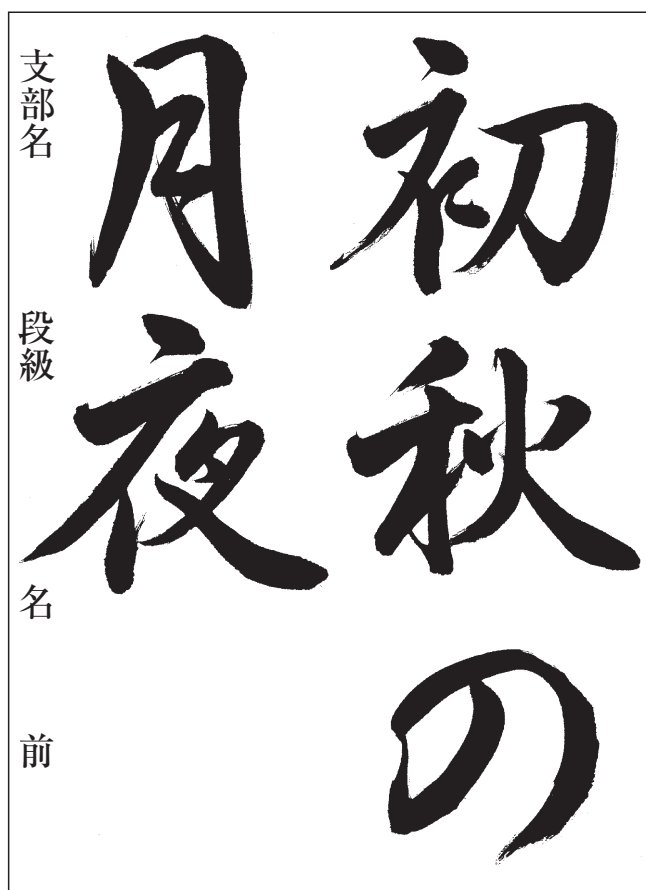
余白を恐れず、空間を活かして
文字を置いていく。詰め込みすぎ
ない美しくが書に深みを与える。
支部名 級 姓 号

青 柳 江 雲 先 生

※本院定型用紙・たて半分に書く

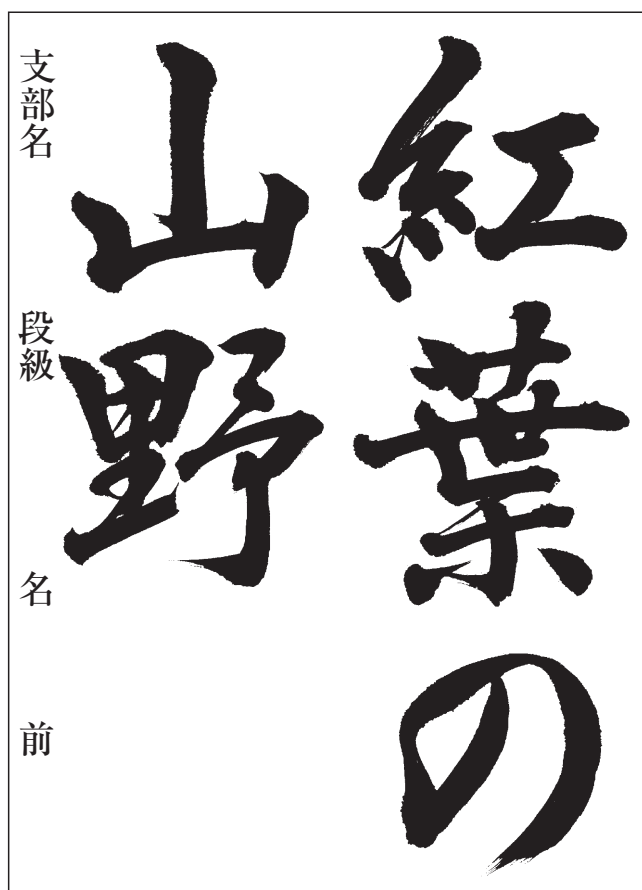
(10月10日締切)

中2用



渡 邊 南 嶂 先生

中3用



大 越 三 宗 先生

小6用



渡 邊 南 嶂 先生

中1用



渡 邊 南 嶂 先生

10 月 10 日締切課題並びに後期昇段級試験課題（10 月 15 日締切）

小4用



大越三宗先生

小5用



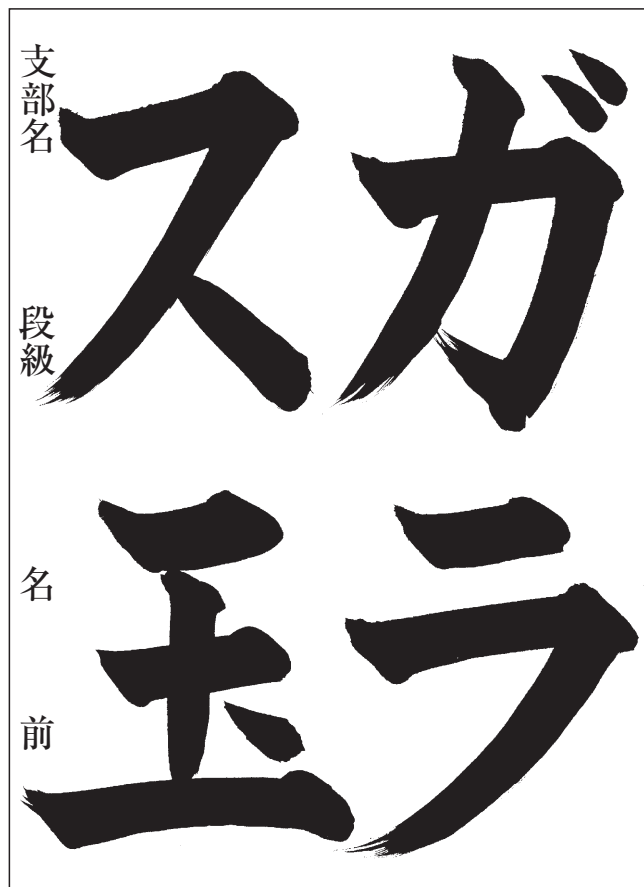
大越三宗先生

小2用



鈴木翡翠先生

小3用



鈴木翡翠先生

10月10日締切課題並びに後期昇段級試験課題（10月15日締切）

中1

教科書の本文を読んで感想文をまとめる。

中1～中3

中2

野鳥が住めるような自然環境にしたい。

青柳江

中3

急にさえ渡った空に、秋の星座が昇り始めた。

雲先生

小1・幼年用

支部名

段級

名

前

ひも

鈴木 恵 先生

小1・幼年

あきは、くだものがいっぱいあります。

小1～小3

小2

とおくで、川の水がひかっています。

田邊翠

小3

ススキが出はじめた。もうすっかり秋です。

鶴先生

小4

高原の風に、コスモスの花が、大きくゆれた。

小4～小6

小5

海辺では、雲が流れ、まつ林が風にさわぐ。

齊藤 翳

小6

学生書道コンクールで特選をもらった。

流先生

10月10日締切課題並びに後期昇段級試験課題（10月15日締切）

小学部小筆課題

支部名		主 幹	菅 野 翠 濤
段 級			
名			
前			

虫の声
秋は近し

中学部かな課題

支部名		船 久 保 棠 苑 先 生
段 級		
名		
前		

つたの葉や
のこすてふ
風 秋の

※半紙半分に書いて下さい。

※半紙半分に書いて下さい。

10月10日締切課題並びに後期昇段級試験課題（10月15日締切）

11月10日締切課題予告

A部条幅規定 雲衢報汝慎勿語一語墮泥塗吳江垂虹亭作斷雲

B部条幅規定 引以爲流觴曲水列坐其次雖無絲竹管弦之

かな条幅規定 草深み分け入りてとふ人もあれやふりゆく宿の鈴虫の声（西行）

半紙規定（初段以上） 扶風險褻侯

半紙規定（二級以下） 玄符天子令

半紙かな（初段以上） 庵にもる月の影こそ淋しけれ山田は引板のおとばかりして（西行）

半紙かな（二級以下） 雁の声のしばらく空に満ち（高野素十）

実用文 落ち葉が冷たい風に舞い、街は静かに冬の支度を始めています。

澄んだ夜空には、きらめく星が美しい季節です。

一般硬筆（初段以上） 紅葉が少しずつ山を染めていき緑から赤へ静かな移ろいが美しい。自然は黙って変わっていく。

一般硬筆（二級以下） 夕暮れの街に涼しい風が吹き、家路を急ぐ影が伸びてゆく。

11月10日締切課題学生部課題予告

中三毛筆 秋の芸術祭

中三硬筆 星空を見上げて、広大な宇宙の神秘を思う。

中二毛筆 白い時計台

中二硬筆 十月は、暑くも寒くもない過ごしやすい季節。

中一毛筆 文化の創造

中一硬筆 日本の四季では、秋が一番美しく感じられる。

小六毛筆 古い伝統

小六硬筆 晴れ後くもり。秋の空は変わりやすい気候だ。

小五毛筆 向かい風

小五硬筆 昨夜の雨が残した水たまりに、光がきらめく。

小四毛筆 子ども会

小四硬筆 山の木が色づき、秋もいよいよ深まった。

小三毛筆 まつ虫

小三硬筆 夕日が西の山を赤くそめてしずみます。

小二毛筆 テスト

小二硬筆 白いくもが、あきの空にうかんでいた。

小一毛筆 さか

小一硬筆 そらは、あおく、くもひとつない。

中学部かな ふるさは雲の先なり秋のくれ

小学部小筆 赤とんぼの 大行進